

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の皆様のつながりを大切にして理念をつくりあげている。	○	地域の皆様の中でその人らしい生活にしたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日勤者と夜勤者が申し送り後に、理念を声に出して言うことから介護が始まっている。	○	スタッフが理念を言うことにより、一日の意識が変わっていくように思っている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	利用者の家族が来られた時、訪問している近所の方との会話の中で理解してもらえよう努めている。	○	地域の皆様には殆ど伝えられず、これから地域の集まりに参加していきたいと思う。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	月に何回か散歩に出かけ、挨拶できるようにしている。	○	散歩だけでなく、集会などに参加していくようにしたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の小学生の訪問は定期的に来られ、交流を深めている。ボランティアの方も数か月に一度の割合で来られている。	○	入居者の方は特に小学生の方が訪問に来られるのを楽しみにしているので、今後も続けていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	時々、見学などは来られている。地域の高齢者の方の役立つ取り組みはできていないが、施設に来られる実習生の受け入れは出来ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の結果に基づき職員間で話し合い、改善できるところから取り組んではいる。	○	取り組みはしているが、職員全員が理解しているかは疑問で、今後一諸に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者のサービスなどを伝え、色々な意見をいただいている。	○	運営推進会議で色々な意見をいただけるように工夫し、参考にしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所として、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでおり、連携はとれている。今後もサービス向上に取り組んでいきたいと思っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学んだり、関係者との話し合いはできていない。	○	理解できるように、勉強会などを行うようにしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止関連法について学び、防止に努めている。		虐待防止の勉強会をし、防止の徹底に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、医療関係についての説明、話し合いをし、同意書をいただいている。対応説明については必ずしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方より意見、不満、苦情など職員に相談されることもあり、その都度対応している。月に一度、介護相談員の方が来られる。	○	利用者の方で意見を言われる方、言われない方もおられるので意見を出しやすいようにしていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に来られた時には、日常の様子、健康状態を知らせている。月に一度、便りを送らせていただいている。	○	各ユニットの管理者が面会時報告している。全職員が報告できようになりたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今の所、参加される人数は少ないが家族会をもうけ、意見の交換をしている。意見は後日、職員間で話し合いをしている。	○	ご家族の方が緊張され、意見を言われるのが一部の方なので、全員から意見が聞けるように工夫したい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度カンファレンスを開き意見交換している。管理者は職員との意見交換はできている。	○	今は運営者とは話し合いはできていないが、話し合いの場面をつくっていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員に差があるが、勤務体制はできている。	○	必要な時間帯に柔軟な対応ができるようにしたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	業務優先のため馴染みの職員の異動が多いように思う。利用者の方には馴染みやすいように声掛けし、対応している。	○	馴染んでいる職員の異動が多く、もう少し人事異動を考えたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、講習を受講できるようにしている。	○	人材育成の計画をたて、職員がステップアップできるようにしたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時々、同業者の施設を訪問し説明も受け、意見交換している。	○	月に一度は他の施設を見学し、勉強できればと思っている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスの軽減については、個人的に行っている。	○	月に一度でもいいからボーリング大会などストレス発散の場を持てるようにしたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	向上心を持てる職場環境を望む。	○	職員が少しでも自己をアピールできるようにしていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者本人とはお話できる機会をつくり、受け止めるよう努めている。	○	利用者本人とお会いして、お話を聞き、状態などの把握に努めていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会など来られた時に、ご家族の思いを聞かせていただいている。	○	ご家族が不安なこと、求めていることを話しやすい雰囲気づくりに心掛けていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、できることは対応しているが、できないことは他のサービス機関に相談している。	○	相談を受けた時に的確に支援を見極められるように努めていきたい。他の機関との関連も学んでいきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できるだけ施設見学をしてもらい、職員も見てください雰囲気味わってもらっている。	○	利用者の方との人間関係を大切にしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	静かに過ごしている方や一日会話している方がおられ、笑顔の見られる雰囲気づくりをし、ご本人の思いが言える環境づくりをしている。	○	利用者の方と何でもお話しできる環境、関係をつくりたい。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに、現状の様子を伝えたり、ご家族の方の思いも聴いたりしている。家族が来られた時は必ず話している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の面会に頻度の差はあるが、少ないご家族の方は利用者の方の状況を伝え、少しでも面会に来ていただけるように支援をしている。	○	ご家族の方と、なかなか触れ合う機会が少ないので、もっと触れ合う機会をつくりたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	週に一回は買い物に行かれ好きな物を買われている。個別に女性なら美容院に行かれたりしています。	○	散歩に行かれた時、近所の人に会えることもあり、いつでも行けるようにしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の方との会話も多く、助け合いもできている。個別に話をうかがいながら行っている。ソファに座り利用者同士が過ごせる雰囲気をつくっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設に変わられた時などは、時々様子を見に行かせていただいている。ご家族の方とはほとんど交流できていない。	○	サービス終了後も訪問していきたいと思っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方に希望、思いを聞きだし、職員同士で話し合いをしている。	○	希望、思いを聞き出せない方は、ご家族の方に聞いたりし、本人の希望などを把握している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの暮らし、生活環境についてはご家族の方より話しを聞かせていただいている。 意志表示のできる方は、直接本人にお聞している。	○	面会に来られた時、状態報告をしっかりとしていきたい。 (生活歴については憶えていない様子である)
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の過ごし方については状態などを把握し、職員間で話し合い利用者の持っている力などの把握につとめている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族の方より利用者の状態など聞き、介護計画を作成している。 直接ご本人から聞ける方についてはお話をうかがっている。 面会時などに意見を聞いたりしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入所してからの状態変化には、職員と話し合いをして介護計画の見直しを行っている。	○	一部のご家族の方とは話し合いの中で介護計画の作成をしているが、全てのご家族や必要な関係者と話し合いの機会が持てるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録、状態変化、一日の様子などの記録はできている。実施の評価を行い、情報の共有もできている。	○	職員によっては、個別の記録にばらつきが見られるため、全職員が詳しく記入できるようにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体調の変化があれば、主治医、看護師に連絡して体調の管理に努めている。全員が急変時についての対応はできている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的には、地域の小学生がふれあい学習に来られ、消防も年に数回指導に来ていただいている。小学生の方が来られた時は大変喜ばれるので交流は続けていく。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャー、サービス事業者の方との話し合いは現在はあまりない。退去時には他のサービスを利用できるように支援している。三か月に一度の散髪などは続けていきたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状は入居時のみで、地域包括支援センターとの協働は少ない。	○	包括支援センターと協議できるように取り組みをしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にはご家族の方と話し合い、希望を聞いて支援を行っている。変化があれば状態などを報告している。	○	利用者の方、ご家族の方の納得がえられるように支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	状態変化時以外にも、定期的に受診を受け指示、助言をいただいている。医師、看護師については情報提供できている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者状態を把握している看護師が、随時相談を行っている。分からないことがあれば相談助言をしてもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は情報などを記入した用紙を渡しており、情報交換を行っている。入院時には状態を見に行き、コミュニケーションを図っている。病院側との情報連絡はできている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時にご家族の方と重度化した時の対応などについて話し合いはしている。状態が悪くなつ時などの話し合いもできている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員のできることを話し合い、穏やかな日々が送れるように取り組んでいきたいと思っている。	○	支援の方法など勉強会を開き、今後に備えたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所へ移られる時はサマリーを作成し渡している。生活状況も説明しており、情報については把握はできている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員がプライバシーへの認識が向上するよう、勉強会を開くなど、プライバシーの確保に努めている。	○ 少しづつしか変わらないと思うが、勉強会などを通し全職員の認識が向上できるようにしたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の方が自分で決めたことができるように、言葉掛けなどに注意しながら接している。	○ 自己決定できるような場面づくりをもっと多くつくってきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方の希望があれば対応している。希望など言えない利用者の方には、何とか聞き出そうとしている。利用者のペースにあった生活を送っていただいている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の方によっては何回も着替え、お洒落をされている。家族と共に行きつけの美容院に行かれている方もいる。三か月に一度理容師の方に来ていただいている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを聞き参考にしている。利用者の方と一緒に簡単な料理をしているが以前に比べ難しくなっている。	○ 簡単なメニュー(味噌汁)が作れればと思っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご家族の方に持って来ていただいている。お酒、タバコは施設では禁止となっている。	○ 施設で出る物以外でも、利用者の方一人ひとりに食べたい物などを聞き、ご家族の方と協力しながら支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつを使用している方もできる限り誘導を行い、トイレで排泄ができるように努めている。	○	上手く誘導できなかった時は、職員間でもっと話し合いをしていきたいと考えている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴日、日時が決まっている。その日に入浴できなかった時は、翌日入浴していただくなど支援している。利用者の希望に沿った支援をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調などにもよるが、個々に休息はしている。夜間も気持ちよく休まれるように支援している。室温はエアコンの温度調節などで対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	意志表示のある方、ない方がいるが、利用者の方に合った支援をしている。笑顔が出るように取り組んでいる。	○	色々な楽しみを見つけ出して、支援につなげていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金の所持は禁止であるが、ご家族の方の希望で持っている方もいる。本人が落ち着くため無くなってもよいと了解された上で持っている。利用者によっては、買い物をされ自分で支払ができるように支援をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご家族が来られ外出している。施設では、ドライブや散歩に出かけている。天気の良い日には散歩をしている。	○	散歩など、とても喜ばれているので外出の機会をもっと多くつくりたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別には遠くへの外出の支援はできていない。	○	ご家族の協力などを得て、支援ができるように取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の方より了解をいただき電話を使用されているが、手紙のやり取りはない。電話をかけると大変喜ばれてる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時居室でゆっくりと過ごしていただいている。帰られる際は、殆どの方が、また来ますと言われる。	○	居室以外で、ゆっくりと過ごせる場所をつくってきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束については、正しく理解できている。	○	理解していても身体拘束が仕方ない時があり、苦慮している。拘束なく対応できるように取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	すぐ前は国道で交通量も多く危険なために鍵をかけている。外出希望時には一諸に散歩に出かけるなどで対応している。	○	できれば鍵をかけないで、自由に入出入りできればよいが、建物上、立地上難しい。できるだけ外出の機会などをつくり支援していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は殆どの方がホールに出て来られているので、職員も見守りができ安全に配慮ができています。	○	夜間帯は各ユニット間で連携を密に行うことで安全確保に努めている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物はケアステーションで管理しており、他に関しては利用者の方の目が届かない所に置いてある。各職員に危険を予測できるように伝えている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬については勉強会も開いており、各職員も理解している。転倒防止についても工夫し、できるだけ防げるように伝えている。	○	事故対策委員を中心に意見を各職員から聞き、事前に防げるよう今後も取り組んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルはあり、職員も周知している。連携医療機関がすぐ隣にあり、直ぐに対応していただいている。	○	全ての職員が応急手当や初期対応ができるように訓練を定期的に行っていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	外出時地域の皆様に顔を知っていただけるようになってきた。年に数回、消防署の協力のもと避難訓練を行っている。	○	利用者の方が安全に避難できるように、色々な機会を通して地域の皆さんに協力をお願いをしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについては面会時に色々な話をする中で説明をさせていただき、理解を得られるように努力している。契約時に説明して理解していただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に状態を見て、体調の変化があれば直ぐに対応できるように努めている。	○	職員全員が体調の変化に早く気づけるように、一つひとつ勉強会などを開き、伝えていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会を開いているため薬の重大性は理解している。服薬支援を行っているため症状の変化には気をつけている。	○	薬について個々の目的などを理解できるようにしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日中、体を動かしたり、水分などで便秘の対応をしている。出ない時は下剤を服用していただいている。レクリエーションなどで取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自分でできない方は職員が支援している。	○	自分で口腔ケアをされる方には、声掛けや後の確認をしっかりと行っていけるようにしたい。正しい口腔ケアの仕方を身につけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては、一日の摂取量、水分量を確保できるようにしている。摂取量が減ってきた場合、医師、看護師に相談、また、ご家族の方に好きな物を持って来ていただいている。水分摂取を明記し摂取量を確認している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルはできている。手洗い、消毒、時によりマスクの着用などできている。	○	今後も勉強会など開き、職員一人ひとりが徹底して対応できるようにしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具は毎日除菌している。居室の冷蔵庫の管理は出来ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りが他の施設と共有のため、自動車の出入りが多く、思うように出来ていない。	○	デイケアとの話し合いにもよるが、お花などを置いていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に狭く利用し難い。浴室、トイレは特に車椅子の方は使用し難く注意が必要となっている。職員は不利な条件の中、できる限り生活感を持っていただけるように工夫をしている。飾りなどについては職員間で話し合いができています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれる所は居室のみとなっている。気の合った利用者の方は互いの居室で話しをされている。	○	居室以外でのスペースをつくっていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の方より馴染みの物を持って来ていただけるようお願いはしている。全ての利用者の方ではないが、写真などを持って来ていただき飾らせていただいている。	○	飾ると落ち着かれる物を、利用者の方に合わせ用意している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭いに関しては、掃除で対応している。温度調節は利用者の方に合わせて行っている。いい香りの匂いになるように工夫し取り組みができています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の利用者の方が安全な生活が送れるようにその人に合った居室内を工夫し、マットなどを敷いたりしている。一人ひとりの対応については工夫し取り組みができています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱されても、回避できるように努め、一人ひとりのわかる力を活かした生活を送れるように努めている。職員全員で話し合い対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	現状ではベランダの使用もできず、外周りの空間の活用もできていない。	○	何かできるようなスペースを工夫しつくっていききたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

連携医療機関と併設していることもあり、医療との連携に力を入れています。(入所される方、御家族の方の多くも希望されています) 少しの状態の変化にでも気が付けるよう日々取り組み、変化があれば日中、夜間問わず医師、看護師に状態を報告し指示をいただき対応しています。

平成12年、開設以来高齢化が進み認知症も進行し、できることができなくなったりするなか、入居者が混乱しないように普通の日常生活を送れることを最優先しています。また地域ボランティア、小・中学生の体験学習など受け入れ態勢を整備し気軽に訪問、交流が図れるように努めている。外部の方とのふれあう機会も多く入居者の表情も和らいでいるように思われる。